

朝倉・うきはブロック スタッフセミナー相互参加スタート

朝倉介護保険事業者協議会では、このたび「うきはブロック介護サービス事業連絡会」との事業連携の一環として、スタッフセミナーを相互に共有する取り組みを開始しました。

これにより、所属ブロックに関わらず参加できるようになり、自宅に近い会場や職場から通いやすい会場を選ぶことが可能となります。参加者の利便性が大きく高まり、学びの機会がより広がるものと期待されます。

協議会ホームページでは「朝倉ブロック」「うきはブロック」それぞれのタブから、最新のセミナー情報をご覧いただけます。



令和7年度 行政との意見交換会開催のお知らせ

当協議会運営部の事業計画の一つである、朝倉地域行政・介護保険事業者協議会の連携強化について、以下の通り開催を予定しています。

日 時：令和7年11月20日(木) 18:00～19:30

場 所：健康福祉館（めくばー）多目的室

内 容：協議会からの活動報告・意見、行政からの報告・要望・意見など
テーマや具体的な協議内容については現在調整中です。

参加者：行 政 朝倉市・筑前町・東峰村・福岡県介護保険広域連合朝倉支部

協議会 会長・副会長・事務局長・運営部長・研修部長・広報部長・各専門部会長

※当日の様子や内容については次号の会報でお伝えする予定です。

協議会ホームページへ今すぐアクセス！ <https://asakura.in>

朝倉介護

検 索



事業報告 I 令和7年度 第1回スタッフセミナー

東峰村社協ホームヘルプサービス 本村 和枝

令和7年7月16日（水）、第1回スタッフセミナーが開催されました。今回は「ユマニチュード ～優しさを伝えるケア技術～」をテーマに、認知症ケアの現場で実践的かつ効果的とされるケアの哲学と技術について理解を深めることを目的としました。講師には、南福岡神経外科病院に勤務され、ユマニチュード認定チーフインストラクターとして全国で指導を行っている安武澄夫氏をお迎えし、豊富な実践経験に基づいた講義を行っていただきました。



ユマニチュードは、フランス発祥のケア理論で、「人間らしさ（ユマニチュード）」を取り戻すことを目指す、哲学と技術が融合したケアのアプローチです。体育教師であったイブ・ジネスト氏とロゼット・マレスコッティ氏によって約40年前に考案され、現在では世界中の介護・医療現場で注目されています。特に認知症の方に対する非言語的な関わりの重要性を重視し、ケアを「する側」と「される側」の人間関係の質を高めることを目的としています。

安武講師の講演では、まずユマニチュードの根幹をなす「哲学」と「技術」の両面が紹介されました。哲学的側面では、「ケアする人とは何か」「ケアとは何を意味するか」といった本質的な問いかけがなされ、ケアとは単に身体的な援助だけでなく、尊厳を守り、人としての関係性を築く行為であることが強調されました。



技術面では、その哲学を具体的に実践するための方法として、「見る」「話す」「触れる」「立つ」の四つの柱が紹介されました。

「見る」では、相手の目を正面から水平に、近い距離で見つめることにより、安心感や信頼感を与える技術が解説されました。威圧的な視線を避けることで、相手のパーソナルスペースを尊重しながら接することができます。「話す」では、穏やかで低めのトーンの声と肯定的な言葉を用いることで、優しさや尊厳が伝わりやすくなることが示されました。「触れる」では、急に敏感な部位に触れない、広くやわらかくゆっくり触れるなど、触れ方によって感情的な安心を生み出す方法が具体的に紹介されました。そして「立つ」では、単に立位を促す行為ではなく、アイデンティティの保持や健康維持に直結する重要なケアであることが説明されました。動く機会を奪わず、本人の主体性を尊重することが大切です。

さらに、ユマニチュードには、実際のケア場面でどのように関係性を築いていくかを示す「五つのステップ」も存在します。1つ目は「出会いの準備」で、ノックや声かけを通して自分の存在を知らせ、相手に安心してもらうこと。2つ目は「ケアの準備」で、相手の好む距離感や言葉遣いを用いてコミュニケーションを始めます。3つ目の「近くの連結」では、見る・話す・触れるの技術を組み合わせて信頼を深め、4つ目の「感情の固定と再開の約束」では、ポジティブな印象を記憶に残し、次回への安心感を生み出します。最後に「再開」では、継続的な関係性を築いていくことが重要とされます。

本セミナーではユマニチュードが単なる技術にとどまらず、ケアに対する価値観を根本から問い直す学びであることが共有されました。

安武先生、大変貴重な講演をいただきまして誠にありがとうございました。

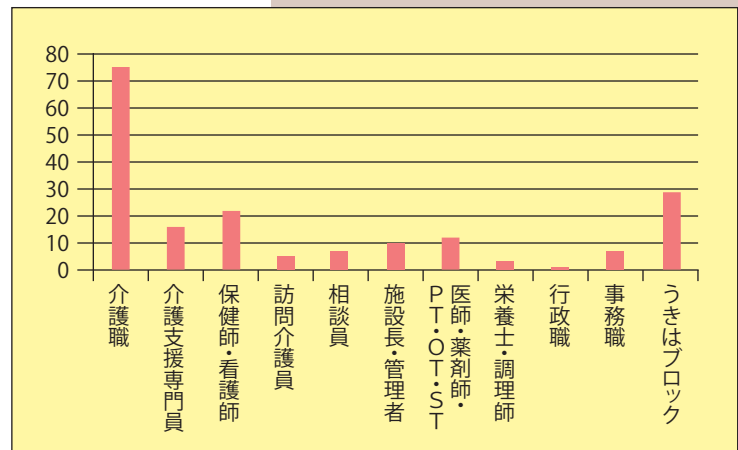
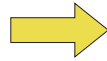


令和7年度 第1回スタッフセミナーアンケート結果

2025/7/17 ピーポート甘木 中ホール

(1) 参加者の状況

参加者数 名		
	一般	
1	介護職	75
2	介護支援専門員	16
3	保健師・看護師	22
4	訪問介護員	5
5	相談員	7
6	施設長・管理者	10
7	医師・薬剤師・PT・OT・ST	12
8	栄養士・調理師	3
9	行政職	1
10	事務職	7
11	うきはブロック	29
	合 計	187



(2) アンケートの集計

① 勤務されている業種

業 種	
居宅介護支援	4
訪問介護・入浴	5
訪問看護	5
訪問リハビリ	3
通所介護	21
通所リハビリ	8
支援センター	0
居宅療養管理	0
グループホーム	11
介護福祉施設	28
介護保健施設	41
小規模多機能	0
病院・医院	1
行政	1
福祉用具貸与・住宅改修	3
その他	4
未記入	23
合 計	158

② 現在の職種

職 種	
介護職	71
相談員(病院・施設・福祉用具貸与)	9
訪問介護員	4
介護支援専門員	8
看護師	13
保健師	1
OT	8
PT	6
ST	0
医師	0
薬剤師	1
栄養士	1
調理師	2
管理者	4
事務職	7
行政職	1
その他	1
未記入	21
合 計	158

③ 経験年数

経験年数について		
1	1年未満	5
2	1年以上3年未満	9
3	3年以上5年未満	10
4	5年以上10年未満	24
5	10年以上	89
6	未記入	21
	合 計	158

④ 講義内容について

アンケート回答者数 60名		
1	非常に良かった	69
2	良かった	35
3	どちらともいえない	2
4	あまり良くなかった	0
5	良くなかった	0
6	未記入	52
	合 計	158
アンケート回答率 84.4%		

(3) ご意見をお聞かせ下さい

今までの「見る」「話す」「触れる」ということについて、改めて意識して対応することが大切。
哲学と技術が大切。立ち止まって考えることが大切。
目線と相手に対する言葉のかけ方。
利用者様が自分らしく安心できるケアと技術を習得したいと思いました。
優しさとは何かを考えさせられた。
パーソナルスペースに踏み込み過ぎないように気をつけたい。
利用者様の空間・声の大きさ・トーンを考えて対応する。
法定研修の類をセミナーでクリアできる仕組みを作してほしい。
スタッフセミナーのLIVE配信をしてほしい。

事業報告Ⅱ 部会活動報告

グループホーム部会

グループホームさくら 宮川みどり

グループホーム部会は、現在 8 事業所で活動しております。

本年度の部会は、年 3 回（6 月・10 月・3 月）に定例会を開催し、情報交換や意見交換を行い、各事業所間での情報共有を図っています。

今年は新型コロナウイルス感染症がやや下火になってきてはいますが、依然として高齢者にとっては重要な課題です。そのため、面会は電話での予約、来訪時の体温測定を経て行っているため、居室での面会は少なく、玄関や玄関横のホール等での面会が中心でした。

また、「どこまで管理されているのか」といった点について意見交換を行い、BCP においても災害や感染症対策の重要性を意識し、利用者様の安全を第一に考える部会でありたいと考えています。

事業報告Ⅲ 褥瘡予防研究会

特別養護老人ホーム日迎の園 眞田 幸司

褥瘡予防研究会は朝倉圏内の「褥瘡ゼロ」を目指し、事業者協議会の会員方の連携強化、褥瘡予防に関する知識・技術のスキルアップを図り、地域の利用者への還元に寄与する事を目的に活動しています。

褥瘡予防研究会の研修開催につきましては、間もなくご案内させていただくところで調整しています。開催日時等決まりましたら事業者協議会 HP の方に UP させていただきます。たくさんのご参加お待ちしております。

また、各事業所や施設での研修会等で学ぶ機会を持てるよう、「床ずれケア DVD」「床ずれケアナビ」本の貸し出しを始めました。窓口を掲載致しますので、是非ご活用いただき今後のケアの参考にさせていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

< DVD・本の貸し出し受付窓口 >

(有) 環彩甘木・朝倉支店 担当 石丸 TEL 0946-23-8068

令和 7 年度あさくら祭り スタッフ派遣のお願い

介護の魅力発信活動の一環として、今年も「あさくら祭り」への参加を予定しています。一般の方に PR する絶好の機会ですので、会員事業所から、多くのスタッフ派遣のご協力をお願いします。

日 時：令和 7 年 11 月 22 (土)～23 日 (日)

場 所：ピーポート甘木・JA 筑前あさくら本店

※当日の様子や内容については次号の会報でお伝えする予定です。

Hobby Box

～気の向くままに～

しのくま整形外科クリニック 原口 貴嗣

最初はちょっとした興味からだったでしょうか、数年前、庭に 100 円弱のプチトマトの苗を植えてみました。すくすく伸びて、花が咲いて、実が熟れて、美味しい。すっかり気を良くしてしまい、2 畳ほどの家庭菜園にいろいろな野菜が並ぶことになりました。プチトマトに始まり、ゴーヤ、サツマイモ、キュウリ、シシトウ、ニンジン、レタス、ブロッコリー、トウモロコシ、ゴボウ… 気の向くままに植えて植えて…

野菜を選ぶ基準は、手軽にできる、という紹介文があるか、簡単よ、と言われることです。世話を忘れることも多いので、初心者向けのものだけにしています。それでも、育て方を調べると、手軽にできるらしい野菜は多く、ちょっとずつ手を出してみています。

まあ、植えてみると、うまくいかないことも多いものです。水が足りない、肥料が足りない、土壌が合わない、など、手抜きが原因のものもありますが、高温、長雨、虫や鳥など、自然には逆らえない、と感じることも多いです。特に、天候はだんだん厳しくなっていますので、農家の方々は凄いなと思っています。

うまくいってもいなくても、自分で育てた野菜をいただくのは嬉しいものです。鮮度だけはどこにも負けません。土に触れると心が落ち着くと言われますし、適度な作業であれば身体も強くなるし、興味を持って良かったなと思います。これまで縁のなかった方も、ふとしたきっかけで野菜を扱うことがあるかもしれません。自然の恵みに感謝しながら楽しめるといいですね。

My Way

介護老人保健施設 アルファ俊聖（通所リハビリ）の石丸 綾香さん

今回、紹介させて頂くのはアルファ俊聖通所リハビリに介護士として勤務しています、石丸綾香さんです。

石丸さんは介護職歴 15 年のベテラン職員です。石丸さんとは城山荘通所リハビリで 10 年間一緒に仕事をしていました。いつも元気で明るい石丸さんは、利用者様からも頼られる存在で周囲を楽しく元気にしてくれていました。

又、仕事業務はテキパキとこなすスタッフからもかわいくてしっかり者の石丸さんは人気者でした。施設の行事ごとでは、ひょっとこになりきりプロ顔負けの踊りで、利用者様やスタッフを楽しませてくれたのを今でも思い出します。そんな石丸さんも、今では 3 児の母となりました。趣味はショッピングやキャンプ！アクティブな石丸さんの休日は娘さんのバレーボールと息子さんのサッカー観戦を元気いっぱい応援する事です。観戦している時は子供さんへのエールを送りつつ自身の疲れを吹き飛ばしているそうです。

公私ともに元気ハツラツとした石丸さんの今後の活躍を期待し紹介文とさせていただきます。

紹介文：介護老人保健施設 城山荘（通所リハビリ） 星野 紗耶加



次回は石丸さんからの紹介で「ほがらかデイサービスアルファ俊聖 松尾 明美さん」です！

介護スタッフリレーコラム

「医療と介護の連携を、日々の現場で実感して」

介護老人保健施設アルファ俊聖 家守 秀彰

私は理学療法士として14年目を迎えます。病院で9年間、そして介護現場で4年間の経験を経て、現在は介護老人保健施設で働いています。当事業所は甘木中央病院に併設しており、医療と介護が物理的にも組織的にも密接に関わっています。とりわけ、当老健は「在宅強化型」の施設として在宅復帰に力を入れているため、医療と介護のスムーズな連携は欠かせません。私が理学療法士として病院に勤務していた頃、患者さんとの関わりは「治療」や「回復」に重点が置かれていました。一方で、老健をはじめとする介護の現場では、利用者さんの「生活」や「自立支援」に焦点が当たります。それぞれの現場で求められる支援のあり方は異なりますが、目的は同じ「その人らしい暮らしを支えること」だと感じています。地域包括ケアが進む中、今後は病院や老健だけでなく、訪問看護や地域包括支援センター、ケアマネジャーなど、さらに多くの職種・機関との連携が求められていきます。在宅強化型老健として、私たちは「施設で終わる支援」ではなく、「その先の暮らしにつなげる支援」を意識していきたいと思います。そして、これまでの経験を活かしながら、医療と介護を“つなぐ視点”を持ち続け、地域の中で役割を果たしていきたいと考えています。

徒然日記

スキップ朝倉店 中野 栄二

～笑顔に出会えるから～

私は福祉用具の仕事に携わって12年になります。その間、多くの方の暮らしに寄り添い、さまざまなお手伝いをしてきました。

先日も「最近、外に出るのが少し不安で…」と話される方に軽量のシルバーカーをご紹介したところ、「これなら安心して散歩できそう」と喜んでいただきました。そうした笑顔に出会えるたび、この仕事を続けてきてよかったと心から感じます。

福祉用具は杖や手すりのように、ほんの小さな工夫で日常をぐっと楽にしてくれます。12年間の経験を通じて思うのは、「無理なく動けることが心と体を元気にする」ということです。

これから秋が深まり、朝倉の景色もますます色づいていきます。皆さまも体調に気をつけながら、心穏やかな秋の日々をお過ごしください。これからも地域の皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。

編集後記

今号は、ユマニチュードのセミナーに始まり、部会等の活動報告、さらには家庭菜園のお話まで盛りだくさんでした。野菜づくりも介護の現場も、思い通りにいかないのはお約束。水やりを忘れればしおれ、虫に食べられればがっかり…。それでも工夫と根気で得られる“実り”は格別です。利用者の小さな笑顔や前進に出会えたときの喜びもまた同じ。違うのは、野菜は収穫が終われば静かに消えていきますが、人との関わりは次の物語へつながること。さて、次号はどんな“収穫”が待っているのでしょうか。お楽しみに!! (広報部:尾花)

事務局

朝倉介護保険事業者協議会 事務局
〒838-0069 福岡県朝倉市来春 422-1
一般社団法人 朝倉医師会
介護支援センター 医師会ケアプラン
TEL 0946-21-8022 FAX 0946-21-8028

編集／発行所

朝倉介護保険事業者協議会 広報部
〒838-1702 福岡県朝倉郡東峰村福井 942-1
社会福祉法人 朝倉恵愛会
特別養護老人ホーム 宝珠の郷
TEL 0946-72-9811 FAX 0946-72-9813
印刷／井上総合印刷株式会社